

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	吹田市立こども発達支援センター（杉の子学園）		
○保護者評価実施期間	2026年1月21日		2026年2月2日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	70	(回答者数) 50
○従業者評価実施期間	2026年1月8日		2026年1月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	67	(回答者数) 52
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こども発達支援センターには専門職が配置され、個別セッション、集団療育、多職種連携療育をおこなっている	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携保育を積み重ねてきた ・コミュニケーションをベースにした「つながりあそび」、体や手を使う「うんどうあそび」を実施し、日々の療育に活かしている 	多職種で連携し、子ども一人ひとりの発達や特性を把握し、生活や遊びを作り、発達を保障していく
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参加や懇談会、学習会、各種講座、ペアレント・プログラムなどを実施している ・心理士、ST、OT、PT、看護師、栄養士など専門職と連携をし相談を実施し家族支援を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズをつかみ、タイムリーに相談できるようにし、学習会や講座の参加を進めてきた ・要求に合った支援ができるよう、他機関とも連携をしてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの全職種での連携をし、タイムリーに家族支援を行っていく ・ケースにより他機関と連携をし、会議を行い支援に繋げていく ・また就園、就学後の地域支援も行っていく

3	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団療育（1クラス10人）で実践を積み重ねている ・センター内研修や外部研修をし、よりよい療育を目指し、積み重ねをしている ・他施設や他機関、事業所との連携を行い、交流や見学をしてもらい、杉の子学園で大切にしている療育を伝えてきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内での情報共有会議や、検討会議を定期的で開催し、センターでの支援の在り方を考えてきた ・他機関とも連携をし吹田市での支援の在り方を共に考えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・吹田市全体の子どもに関わる支援を、他機関と連携し公的施設として共に考えていく ・新発達支援制度に向けて、幼稚園やこども園からも杉の子学園への見学をしてもらったり、アウトリーチの在り方を考えていく
---	---	--	---

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・配布物などほとんどが紙ベースでICT化が進んでいない ・保護者からはバスの遅延情報が速やかにお知らせできていない（GPSを要望されている） 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画、予算を立てて導入に向けて、進めてきた ・来年度に向けて保護者の要望や職員の使いやすさに加え、予算と合わせてアプリ等の導入を検討してきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・園と保護者との連携を、来年度4月からアプリを導入し、ICT化することになった ・保護者が使用しやすいように、また職員の事務軽減になるよう進めていく
2	地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の園児との交流の中で、計画的に進める中で、刺激を受け楽しめてこれたが、回数が増やせればよいと思う ・敬老会等の交流は感染のリスクもあり持っていない 	地域の敬老会等の交流や、きょうだい児の交流の場を作る事は工夫のできるのか、日程調整を含め行事等も多い中難しさがある
3			